

国語 第4学年 漢字を使おう（1～11）

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を私の学級に合わせて直してください。初めに、学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や配慮、使える時間と本時の位置、ICTと紙の道具の条件を一項目ずつ質問し、答えを待ってから次の質問へ進んでください。条件がそろったら、文意に合う既習漢字の使用と推敲という目標を保ち、文章中の漢字と修正理由の記録で学びを確認できるように全体を直してください。教科書の本文や台詞、挿絵、固有の問題は転載しないでください。配当時間は出典に従い、活動の配分を提案する場合は提案と明示してください。児童の姿を実測済みの事実として創作しないでください。三重の指導案の見出しの順と評価の三観点を保ち、内部IDなどを先生向けの文章へ出さないでください。変更箇所と根拠を示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名「漢字を使おう（1～11）」

2 単元の目標

文意に合う既習漢字の使用と推敲を捉え、言葉を使う場面で役立てる。文章中の漢字と修正理由の記録に自分の判断と理由を表す。友達の応答や自分の記録を基に、言葉の捉え方や表し方を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①文意に合う既習漢字の使用と推敲を理解し、学習で扱った語句や例を示して説明している。

（〔知識及び技能〕(1)エ）

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、各回の漢字を学校で使う説明や記録に入れ、送り仮名・字形・文意を観点ごとに読み返している。（B(1)エ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

この単元では、文意に合う既習漢字の使用と推敲を中心に学ぶ。各回の漢字を学校で使う説明や記録に入れ、送り仮名・字形・文意を観点ごとに読み返す活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)エとB(1)エに関係する学習である。成果は、作業が終わったかのほかに、文章中の漢字と修正理由の記録にどんな判断の理由が残るかで捉える。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

予想される難しさは、漢字の練習と文章の推敲を別の作業だと思うことである。書き取りの字を自作文へ使い、読み手が取り違えた箇所から直す字を選ばせる。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想で、実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全11時間）

各回の学習 第1時：○その回に扱った表記を、学校で起きた出来事を書く文の中で使う。○漢字を直したことで、文章の意味は正しく伝わりますかを観点に、読み手が意味を取り違えないかを見直し、訂正した箇所を記録する。 評価：知①（表記と語の意味）・思①（文章の見直し）

各回の学習 第2時：○その回に扱った表記を、学習で観察した物を書く文の中で使う。○漢字を直したことで、文章の意味は正しく伝わりますかを観点に、読み手が意味を取り違えないかを見直し、訂正した箇所を記録する。 評価：知①（表記と語の意味）・思①（文章の見直し）

各回の学習 第3時：○その回に扱った表記を、図書館で読んだ本を書く文の中で使う。○漢字を直したこと

で、文章の意味は正しく伝わりますかを観点に、読み手が意味を取り違えないかを見直し、訂正した箇所を記録する。 評価：知①（表記と語の意味）・思①（文章の見直し）

各回の学習 第4時：○その回に扱った表記を、友達への連絡を書く文の中で使う。○漢字を直したことで、文章の意味は正しく伝わりますかを観点に、読み手が意味を取り違えないかを見直し、訂正した箇所を記録する。 評価：知①（表記と語の意味）・思①（文章の見直し）

各回の学習 第5時：○その回に扱った表記を、校内の場所の紹介を書く文の中で使う。○漢字を直したことで、文章の意味は正しく伝わりますかを観点に、読み手が意味を取り違えないかを見直し、訂正した箇所を記録する。 評価：知①（表記と語の意味）・思①（文章の見直し）

各回の学習 第6時：○その回に扱った表記を、調べて知った事実を書く文の中で使う。○漢字を直したことで、文章の意味は正しく伝わりますかを観点に、読み手が意味を取り違えないかを見直し、訂正した箇所を記録する。 評価：知①（表記と語の意味）・思①（文章の見直し）

各回の学習 第7時：○その回に扱った表記を、学級の活動への提案を書く文の中で使う。○漢字を直したことで、文章の意味は正しく伝わりますかを観点に、読み手が意味を取り違えないかを見直し、訂正した箇所を記録する。 評価：知①（表記と語の意味）・思①（文章の見直し）

各回の学習 第8時：○その回に扱った表記を、行事の振り返りを書く文の中で使う。○漢字を直したことで、文章の意味は正しく伝わりますかを観点に、読み手が意味を取り違えないかを見直し、訂正した箇所を記録する。 評価：知①（表記と語の意味）・思①（文章の見直し）

各回の学習 第9時：○その回に扱った表記を、日常の道具の説明を書く文の中で使う。○漢字を直したことで、文章の意味は正しく伝わりますかを観点に、読み手が意味を取り違えないかを見直し、訂正した箇所を記録する。 評価：知①（表記と語の意味）・思①（文章の見直し）

各回の学習 第10時（本時）：○その回に扱った表記を、自分の考えの理由を書く文の中で使う。○漢字を直したことで、文章の意味は正しく伝わりますかを観点に、読み手が意味を取り違えないかを見直し、訂正した箇所を記録する。 評価：知①（表記と語の意味）・思①（文章の見直し）

各回の学習 第11時：○その回に扱った表記を、次の学年へ伝えることを書く文の中で使う。○漢字を直したことで、文章の意味は正しく伝わりますかを観点に、読み手が意味を取り違えないかを見直し、訂正した箇所を記録する。 評価：知①（表記と語の意味）・思①（文章の見直し）

6 本時の指導（10／11）

（1）本時の目標

文意に合う既習漢字の使用と推敲について、例や資料を根拠にした自分の考えを文章中の漢字と修正理由の記録へ表すことができる。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。

○「漢字を直したことで、文章の意味は正しく伝わりますか」

【めあて】文意に合う既習漢字の使用と推敲について、自分の考えと理由を表そう。

予想される児童の反応：・説明する相手が分かる文で漢字を使うと、意味も確かめられる。

・初めの見方では決められない箇所もあり、例を比べてみたい。

指導上の留意点：本時に使う具体例を見える所へ置く。漢字の練習と文章の推敲を別の作業だと思わせる姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。

【展開】

学習活動：2 各回の漢字を学校で使う説明や記録に入れ、送り仮名・字形・文意を観点ごとに読み返す。

3 文章中の漢字と修正理由の記録の下書きや途中の記録を示し、考えた理由を説明する。

○「漢字を直したことで、文章の意味は正しく伝わりますか」

4 聞き手は、説明に使われた語句や資料を示して質問する。答えが異なる所は、意味や条件を調べてもう一度表す。

予想される児童の反応：・説明する相手が分かる文で漢字を使うと、意味も確かめられる。

・最初はそう考えたが、別の例と比べると直したいところが見つかった。

指導上の留意点：書き取りの字を自作文へ使い、読み手が取り違えた箇所から直す字を選ばせる。説明が難し

い児童には、対象の語句を選ぶ、線や矢印で関係を示す、口で説明するという方法も用意する。書く量を減らす場合も、本時に考える言葉の関係は残す。早くできた児童には、同じ説明が通らない場合や、他の言い方の可能性を考えさせる。

評価：思① 各回の漢字を学校で使う説明や記録に入れ、送り仮名・字形・文意を観点ごとに読み返している。(途中の記録・説明)

【まとめ】

学習活動：5 文章中の漢字と修正理由の記録へ、本時の判断と理由、見直した箇所を記す。

【まとめ】説明する相手が分かる文で漢字を使うと、意味も確かめられる。

6 初めの答えとの違い、または理由を確認して残した点を振り返る。

予想される児童の反応：・文意に合う既習漢字の使用と推敲を、別の場面でも意識して使いたい。

指導上の留意点：結論が教師の例と同じかだけで判定しない。漢字を直したことで、文章の意味は正しく伝わりますかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。

評価：知①（語句や関係の説明）・態①（見直しの理由。単元を通した記録と合わせる）

（3）本時の評価

おおむね満足できる状況は、文章中の漢字と修正理由の記録で、本時に選んだ語句や説明の理由を表している姿とする。漢字の練習と文章の推敲を別の作業だと思えば、書き取りの字を自作文へ使い、読み手が取り違えた箇所から直す字を選ばせる。発表の回数や作品の飾り方は評価の根拠にしない。

（4）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には文意に合う既習漢字の使用と推敲を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に文章中の漢字と修正理由の記録で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に確かめたこととその後に使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

